

事務事業名	飯田古墳群保護活用事業				会計	一般会計		事業種別	政策	開始	20	終了																							
H27担当課等名	生涯学習・スポーツ課	H27係等名	文化財活用係		H26係等名	文化財活用係																													
基本計画上の位置づけ	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり																																
	施策	63	地域資産の保存・継承																																
目的	対象(誰・何を)	前方後円墳をはじめとする、市内にある古墳				対象指標	指標名及び単位				26年度数値																								
	意図(どういう状態にするか)	全国に誇れる地域資産として後世に伝えていくとともに、人づくり・まちづくりに活かす					市内で確認された古墳数(基)				523																								
	向上させたい上位施策の成果指標	保存・継承されている地域資産の数(累計)					優先的に保存活用すべき主要古墳数(基)				22																								
目標	種別	指標名及び単位				26年度計画	26年度実績	27年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)																									
	成果指標	古墳見学会・学習会の開催回数(回)				15	18	15	20																										
	成果指標	指定準備が整った古墳数(基)				6	13	13	13																										
	定性目標																																		
事業概要	<p>・飯田市は、22基の前方後円墳・帆立貝型古墳をはじめとする多くの古墳の存在が示すとおり、古墳時代においても繁栄を遂げていた地域であった。こうした背景には、当時の飯田の地が、軍事、運輸上から重要であった馬の生産・管理に携わり、中央政権(ヤマト王権)との強いつながりをもっていたためである。ごく限られた範囲に集中的に築造された群としての一体性、様々な墳形、石室構造を持つ多様性、出土遺物の中には飯田型とも称されるものが存在する独自性が飯田古墳群の重要な特徴である。飯田古墳群は、律令制度による中集権国家が成立する前の中央と地方の関係を地方の視座からとらえられる点で日本史上重要な価値を持っており、全国的にも注目されている。</p> <p>・本事業は、市内の主要な古墳を飯田古墳群と総称し、保存活用を図ることを目的としている。その方策として、以下のような事業展開を行う。①飯田古墳群の日本史上の価値を明らかにし国史跡指定を目指す、②古墳を核とした人づくり・まちづくりを地域と連携して進める、③その存在と価値に対する市民理解が進むよう積極的な情報発信を行う。</p>																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th>名称</th> <th>活動指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 古墳の現況把握調査</td> <td>1 調査対象古墳数</td> <td>1 13基</td> </tr> <tr> <td>2 史跡指定に向けての文化庁・県教委協議・視察等</td> <td>2 実施回数</td> <td>2 6回</td> </tr> <tr> <td>3 外部研究者による現地視察</td> <td>3 実施回数</td> <td>3 2回</td> </tr> <tr> <td>4 馬背塚古墳の範囲確認調査</td> <td>4 調査対象古墳数</td> <td>4 1基</td> </tr> <tr> <td>5 姫塚古墳の墳丘測量調査</td> <td>5 調査対象古墳数</td> <td>5 1基</td> </tr> <tr> <td>6 地域との協働による学習会・保護活動・検討会等の実施</td> <td>6 実施回数</td> <td>6 18回</td> </tr> <tr> <td>7 市内外への情報発信</td> <td>7 実施回数</td> <td>7 5回</td> </tr> </tbody> </table>												事業内容	名称	活動指標	1 古墳の現況把握調査	1 調査対象古墳数	1 13基	2 史跡指定に向けての文化庁・県教委協議・視察等	2 実施回数	2 6回	3 外部研究者による現地視察	3 実施回数	3 2回	4 馬背塚古墳の範囲確認調査	4 調査対象古墳数	4 1基	5 姫塚古墳の墳丘測量調査	5 調査対象古墳数	5 1基	6 地域との協働による学習会・保護活動・検討会等の実施	6 実施回数	6 18回	7 市内外への情報発信	7 実施回数
事業内容	名称	活動指標																																	
1 古墳の現況把握調査	1 調査対象古墳数	1 13基																																	
2 史跡指定に向けての文化庁・県教委協議・視察等	2 実施回数	2 6回																																	
3 外部研究者による現地視察	3 実施回数	3 2回																																	
4 馬背塚古墳の範囲確認調査	4 調査対象古墳数	4 1基																																	
5 姫塚古墳の墳丘測量調査	5 調査対象古墳数	5 1基																																	
6 地域との協働による学習会・保護活動・検討会等の実施	6 実施回数	6 18回																																	
7 市内外への情報発信	7 実施回数	7 5回																																	
事業コスト		25年度決算額	26年度予算額	26年度決算額	27年度予算額	特定財源内訳、補足																													
事業費計(千円)①		2,400	2,404	2,400	2,400	(国)文化財保護補助金(埋文発掘)(1/2)																													
国庫支出金		1,200	1,200	1,200	1,200																														
県支出金																																			
起債																																			
その他																																			
一般財源		1,200	1,204	1,200	1,200																														
人件費計(千円)②		3,576		7,152																															
正規職員所要時間		1,000		2,000																															
臨時職員所要時間																																			
総事業費①+②		5,976	2,404	9,552	2,400																														
事業内容・目標達成状況の振り返り	飯田古墳群の学術評価のまとめが概ね完了した。各古墳の現況についての詳細調査を実施しカルテ化を進めた。さらに、馬背塚古墳の範囲確認調査・姫塚古墳の墳丘測量調査を行い、古墳情報のさらなる把握を行った。また、新たな取組みとして、主要古墳が存在する4地区の保存活用組織に呼び掛けて「飯田古墳群を語る会」を複数回開催した。																																		
改革改善の考え方	①問題点	飯田古墳群の存在や、歴史的価値についての情報発信機能を充実させる必要がある。																																	
	②改革提案	主要な古墳が存在する地域を中心に、地域と連携を図りながら古墳の価値と保存活用についての講座や講演会等を開催とともに、市民向けパンフレットの作成や、ホームページへの掲載情報の充実を図る。																																	